

12/6（日）午後開催された 篠山市市民フォーラム 第2回「障がいの重い人たちの安全・安心な生活を地域で支援する」 ～スウェーデンにおける障がい児・者の福祉と医療の舞台裏～

<当日会場からFBしたものに加筆などさせて頂きワード編集させていただきました。>

篠山市市民フォーラム第2回「障がいの重い人たちの安全・安心な生活を地域で支援する」
～スウェーデンにおける障がい児・者の福祉と医療の舞台裏～

<http://www.city.sasayama.hyogo.jp/pc/group/chiikifukushi/cat1924/post-82.html>

スタートしましたよ。参加者は100名近くに。まず挨拶を兼ねて篠山市保健福祉部長さんが篠山市の医療や介護の状況報告中、

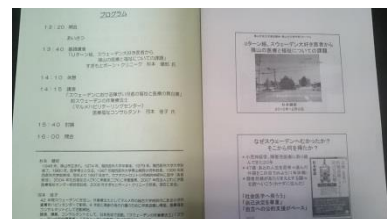
その後、基調講演は杉本健郎さん

<http://web.kamogawa.ne.jp/%7Esugimoto/>

*Uターン組 スウェーデン大好き医者から

篠山の医療と福祉についての課題

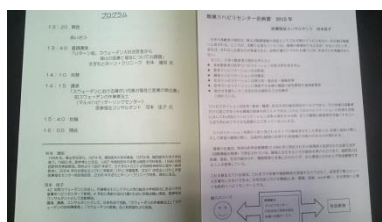
- ・なぜスウェーデンへむかったか？
そこから何を得たか？
- ・篠山へのUターンの理由
- ・篠山市での8年（その1）
- ・篠山市の到達点（その2）
- ・今後の課題



講演は河本佳子さん

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7437/>

・地域リハビリセンター企画書 2015年



がお話しされます。お話しを聞いた後、今フロアー参加者から発言に杉本さん、河本さんがお応え。・動ける重症児を受け入れてくれる所は？、河本さん：学童的保障ではどうですか？、杉本さん：ショートステイ質の問題も。パーソナルアシスタントの必要性。自立へのイメージやシステムづくりも必要。3号研修の充実を。河本さん：ボランティア募ってみても。・高齢者の学習の場はスウェーデンでは？、河本さん：集まれる場があり社会参加を保障している。フットサービスもある、各地域にコミュニティハウスがある。・専門的なセンターの雇用費用は？、河本さん：公的保障している。・権利擁護は？、河本さん：権利保障を学んでいる、お互いの意見を聞きあい論議する場が保障されている社会に。……など大切な重質なフロアー発言でています。時間が来たので閉会になりました。

△6日市民フォーラム模様を伝える神戸新聞12/7付 丹波版

障害者の暮らし考えよう 篠山でフォーラム

<http://www.kobe-np.co.jp/news/tanba/201512/0008625834.shtml>

> 障害者が暮らしやすい社会について考える市民フォーラム「障がいの重い人たちの安全・安心な生活を地域で支援する」が6日、兵庫県篠山市網掛の丹南健康福祉センターで開かれた。福祉国家として知られるスウェーデンの制度や実情を、医療福祉コンサルタントの河本佳子さんが報告した。市地域自立支援協議会と市が主催。約60人が参加した。

河本さんはスウェーデンで作業療法士を長年務めた経験がある。同国は国民が高い税金を負担して社会保障を充実させており、河本さんは「障害者は自立して人生を選択している」と指摘。障害者一人一人が国の補助でアシスタントを雇えることや、健常者と一緒に学べる教育制度などを紹介した。

河本さんは、日本では福祉制度や窓口が縦割りになっている点にも言及。「(障害者や家族が)1カ所の窓口でさまざまな専門家から多様な支援を受けられる仕組みがあれば、すごく楽になる」と語った。

この日は、すぎもとボーン・クリニック(篠山市味間新)の杉本健郎医師も講演し、同市の障害者福祉について「組織の枠にとどまらず、当事者も支援者も顔の見える関係を築くことが重要」と強調した。

…などと伝えています。



スウェーデンの医療・福祉制度を紹介する河本佳子さん＝丹南健康福祉センター

※当日の講演されたお二人の講演レジメです。

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20151206-sasayama-03.pdf>